

Berlin Report

February 2024

CONTENTS

- * Project 1: The Pink Room
- * Project 2: Verōnika

1. The Pink Room

Project Overview

2024 年のインテリアトレンドとして、真っ先に上がるキーワードが **Dopamine Decor** だ。ピンク色を一面に取り入れ大胆な柄やふわふわでキラキラした素材を散りばめる。足を踏み入れた瞬間“アガる”インテリア。この好例が、和食を出すレストランとは思えない空間で強烈な印象を与える「The Pink Room」だ。

数多くのラグジュアリーホテルが集まる、ジャンダルメンマルクト広場に面する **The Pink Room**。外には目立つ看板すら見当たらないが、ドアを開ければ一面ピンク！シャンデリア、アンティークの鏡や大理石を使ったテーブルやワイングラスに至るまであらゆるものが、ピンク色だ。スツールの脚や鏡の枠、カウンターには、一部ゴールドが差し色として使われている。

ピンクの絨毯で覆われた床や、ベルベット素材のカーテンやソファなど、全体的にはクラシックな雰囲気だ。しかし中央にゴムのアヒルのおもちゃで満たされた噴水が置かれていたり、彫刻や剥がれたような立体プリントの壁紙、剥き出しの水道管なインダストリアルデザインの照明などで、ひねりが加えられている。

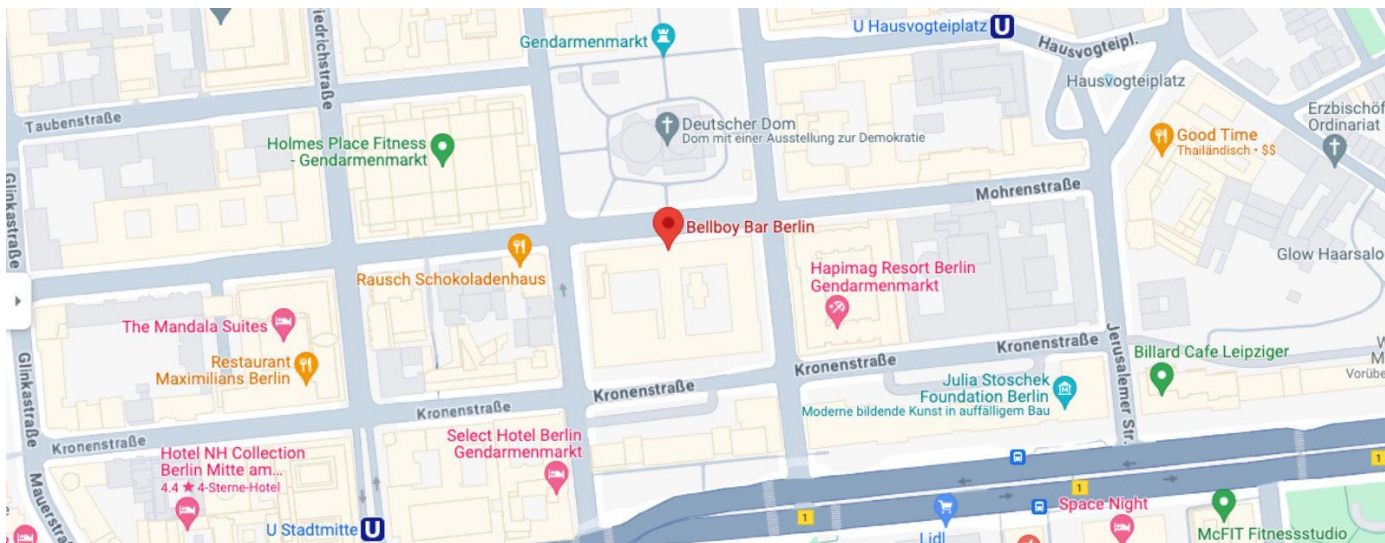
Tel Aviv を拠点とする **BELLBOY BAR** の新機軸であるこのレストラン。ベルリンでミシュラン1つ星を持つレストラン「Prism」のオーナーGal Ben Moshe が、世界中の **NOBU** で料理長を勤めたシェフ **Paris Katsampis** とタッグを組み、レバント料理と和食の味と技術の融合という画期的なアイデアを提案している。1920 年代のバーレスク劇場のような空間で味わう分厚い刺身や、豪華な寿司盛り。こんな“和風”も悪くないと思わせてくれる。

2023 年末、Architecture & Design Collection Awards、インテリア部門金賞を受賞。

Project Details

1. Client: The Pink Room
2. Type of Business: Restaurant
3. Open Date: 21/09/2023
4. Location: Mohrenstrasse 30, 10117 Berlin
5. Size: 600 m2 (incl.Bar)
6. Interior: SZ design (Saar Zafrir)
7. Website: <https://www.pink-room.de/>

Location





上：天井から床に至るまで様々なピンクで覆われた空間。下：寿司カウンターとは思えない！Gong などアジア風の小物も。





上：全ての空間を微妙に異なるグレイッシュなピンクで統一。ネオンピンクの器でアクセントを。

照明はアール・ヌーヴォー、テーブルにも真鍮が使われていたり、1920年代のバーやカフェを思わせる。



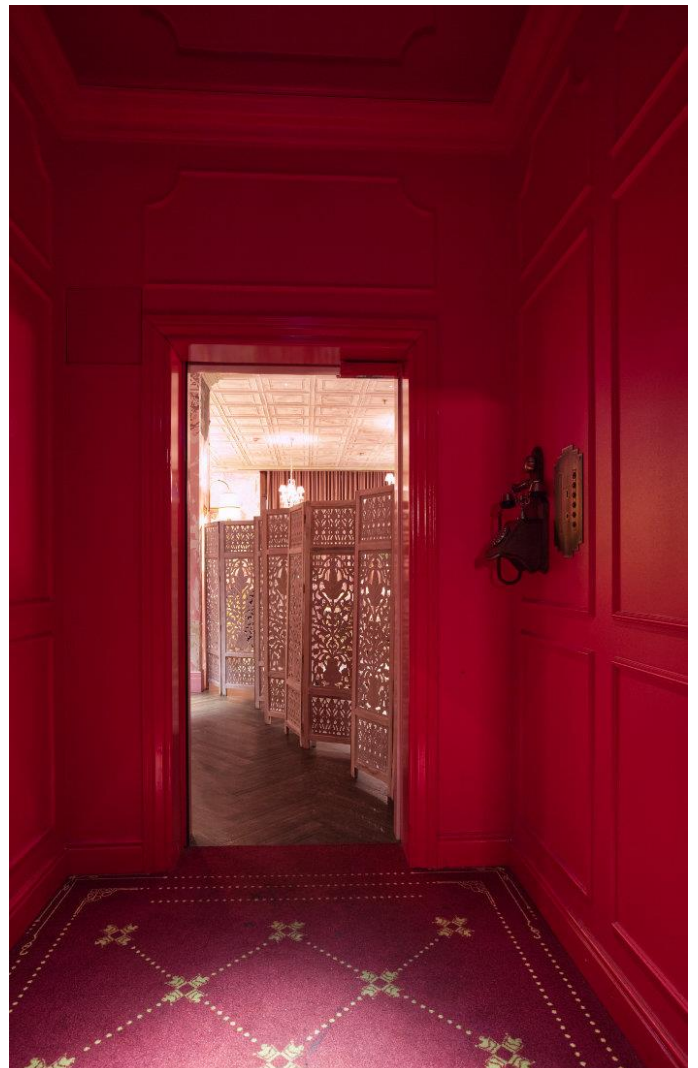
上：天井は格天井（Coffered ceiling）に。額縁のような装飾的な飾りや剥がれたように見える壁紙を重ねて。

下：アンティークの鏡を使ったテーブルには天井の装飾やシャンデリアなど、周囲のピンク色が映り込む。





上：大理石のカフェーブルやアジア風のパーテーションを重ねて毒々しく。下右：隣接するバーにつながる通路は全面朱赤に塗装香港映画のセットのよう？下左：バスルームへの通路。木彫りのような壁紙、磨りガラスのパーテーションのリズムも面白い。



2. Verōnika

Project Overview

ベルリンのオルタナティブカルチャーを代表する存在だった「Kunsthau Tacheles」。20世紀初頭に建てられたデパートの廃墟を1990年代にアーティストが占拠。壁にはグラフィティが描かれ、大きな中庭は巨大なオブジェを作るスタジオとなった。その朽ち果てたビルが昨年、Herzog & de Meuron のマスタープランによって現代的な複合ビルに生まれ変わった。その一画には写真ミュージアム「Fotografiska」ベルリン支店がオープン。併設のレストラン・カフェ・バー「Verōnika」も話題を呼んでいる。

Verōnika のインテリアデザインを担当したのは、自らも1987年からベルリンに拠点を置き、1990年代からのタヘレス、ベルリンの変遷をよく知るデザイナー、Werner Aisslinger だ。アーティストの落書きが残る壁や、鉄骨やレンガが剥き出しの壁といった Kunsthau Tacheles の荒々しい痕跡は残しつつも、家具にはベルベットやソフトレザー素材を使った洗練されたデザインの物をセレクト。カウンターには、Sebastian Herkner が Kaufmann Keramik のためにデザインした円柱を割ったようなタイル「Soap」を貼ってアクセントにしている。ベルリンらしさはあるが、ノスタルジックにはならない匙加減だ。

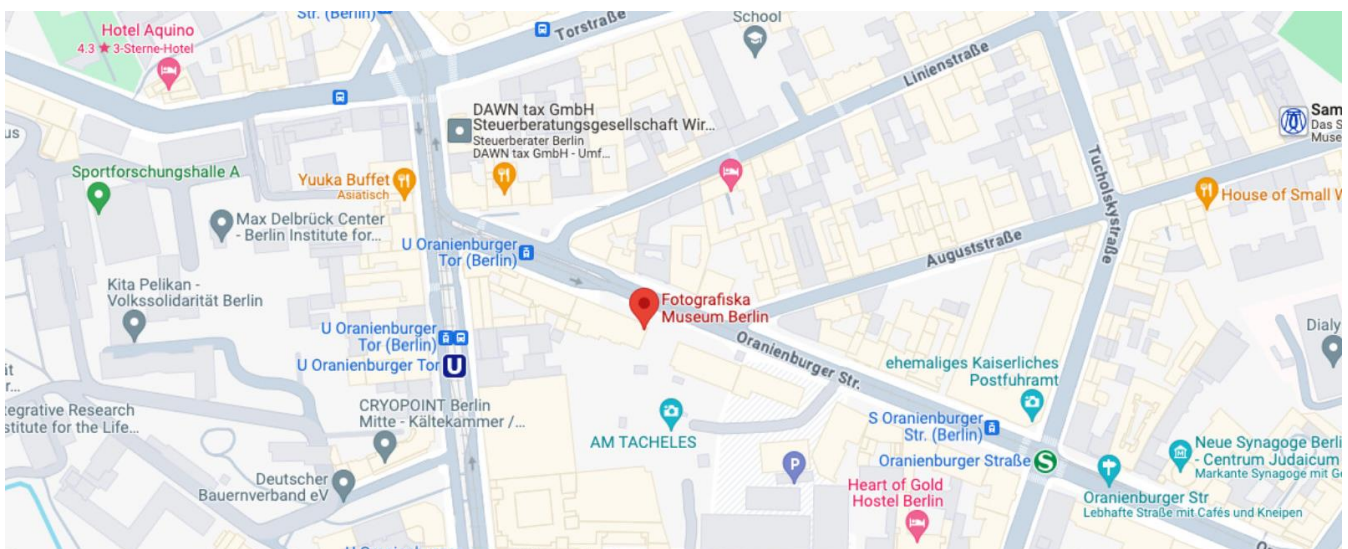
レストランスタッフのユニフォームにも、そのコンセプトが反映されている。ベルリンのデザイナー Esther Perbandt が提案したユニセックスのスカート x パンツスーツは、世界のどの大都市でもあり得るスタイル。上質で洗練された高級家具とヴィンテージが程よくミックスされた、都会的な空間によく映える。

Project Details

1. Client: Fotografiska
2. Type of Business: Restaurant, Bakery and the Café Bar
3. Open Date: 09/2023
4. Location: Oranienburger Strasse 54, 10117 Berlin
5. Size: 338 m2
6. Interior: Werner Aisslinger
7. Website: <https://www.veronikaberlin.com/>

Photo (c)PION Studio

Location





上：店の中央には広々とした空間を強調するように長いカウンターが。半円のタイルがリズムを作る。下右：ヴィンテージのオブジェと Aisslinger デザインのモダンな照明がアーティストが残していった壁画を照らす。下左：スタッフのユニフォーム。

